

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム（福島会場）  
座談会の概要

テーマ：「木材利用の魅力と多様な可能性～福島の林業・木材産業の再生～」

登壇者：関根健裕氏（関根木材工業(株)）

伊藤大輔氏（(一社) 福島県建築大工業協会青年部・木造工舎）

田子英司氏（いわき市森林組合）

安藤直人氏（東京大学）

（座談会の概要）

テーマ1：森林や木材に関する消費者への普及啓発

- ・南会津は木材の消費が少なく、様々な地域の木材が入手しやすい地域。そこで、消費者に対し南会津産木材の魅力をもっと伝えられるような商品をつくることを考え、消費者に木のおもちゃを見せてこれが南会津産の木材でつくったおもちゃだとわかってもらえるよう、おもちゃと南会津が繋がることを考え、取り組んでいる。（関根氏）
- ・やっぱり木を感じてもらうことが一番。具体的には、木に見える家にすることや、手や足で木に触れてもらうことをコンセプトにした家造りに取り組むことで、現場がいわばショールームとなり、ショールームを使っていたお客様からこの家は「いいね！」と言われたことがとても嬉しかったと言われるケース。木造の家をお客様に薦めるだけでなく、知人や友人等の仲間から良い家を造ってもらったと言われることが嬉しいことから、そのようなことが木造住宅のPRにも繋がる。（伊藤氏）
- ・私が住んでいる中山間地域では、周辺の小中学生が山に入る機会がほとんどなく、木のことを知らない。そこで、自分の山へ小中学生に来てもらい、間伐体験をしてもらったことがある。間伐する木は、生徒さんのご両親の年齢くらい経過している木であり、伐採しなければあと100年程度生きられると説明。実際に、生徒さんの目の前で選定した間伐木を伐採し、生きている木を伐採するかしないのかを決めることはとても難しいことであり、生徒さんが選定する間伐木の重要性について、真剣に考えてもらった。このような事を繰り返しやっていきたい。（田子氏）

テーマ2：木材の利用促進に向けて

- ・国産材を使っただけは、木材産業を元気にさせるとともに地域の環境も整備されると考えている。

毎日飲む水は当たり前のように使っているが、水が飲めるのは上流域の

森林があるお陰。このため、上流域の森林が適切に整備されることで、木材を使うことにも繋がっていく。(田子氏)

- ・住宅メーカーが果たしてきた役割は大きく、製造技術を向上させ同じ製品を供給できる、いわゆる工業化に成功し住宅の品質を引き上げてきた。また、昔ながらの木造軸組工法などで木造住宅を建設してきた工務店も住宅メーカーの影響を受け、製造技術を向上させてきた。

このため、消費者が木造住宅を購入する場合、地元の大工に頼めば、長い間、メンテナンスができるし、家も将来にわたり継承されていく。これが地元ならではの良い循環。

地元の魅力を消費者に伝えていく努力をしないと、大手住宅メーカーとの差が埋まらなれないと感じている。(安藤氏)

### テーマ3：林業の成長産業化に向けて（課題や今後の展望など）

- ・木造住宅の価格について、木材を供給する川上側は、住宅メーカーの販売戦略などの観点で主導的な立場となれないことから、今後は住宅メーカーと対等な立場にしていく必要がある。また、住宅の構造上、消費者が分からない箇所は全て高い見積もりとなるが、分かっているならば正当な見積もりを得ることができる。一般的に、木造住宅は高いと言われるが、材料は実際に安い。単に木造の知識がないため高く感じるだけである。

心ない一部の住宅メーカーが価格面で優位に立つ木材業界、それを改善しないと、大量に流通する木材を正しい道筋に戻すことはできない。

(安藤氏)

- ・年間 2,000m<sup>3</sup> 程度と生産量が少ない弊社の製材所は、大型工場と比べ、1本当たりの木材価格がどうしても高くなってしまふ。そこで、SGECとして第3者が認定する材料で管理することや、南会津産材の長所をPRすることで、消費者に木材を購入してもらっている。しかし、弊社は木材の消費そのものが上向きでないことから、大手製材業者の生産・販売価格にはどうやっても太刀打ちできない。(関根氏)
- ・自分の身近には、製材所があり、床柱、床板及び壁紙などを欲しい場合、常に相談できることが有り難い。また、森林組合の田子さんなど川上側と連携することで、市場に卸した材の取り引きがしやすくなる。(伊藤氏)
- ・これからの福島の林業を考える場合、行政、川中、川下などの本気度が問われる状況にある。それを現実的なものとして裾野を広げていくためには、いわきだけでは限界があり、点から線、面にしていくと言った同じ考えや方向性を持たなければ、「震災のあった福島だから仕方がない」と思われてしまう。

来年度から、国の森林環境税や譲与税など新しい森林管理システムが動くので、我々にしてみれば待ちに待った安定財源である。その取組をどのように広げていくのか、福島だけでなく栃木や宮城でも取り組んでいかないと、今の状況からさらに一歩前に出るのは厳しい。(田子氏)

#### テーマ4：その他、登壇者からのコメント

- 工務店は相談事や遊びに行ってお話を聞くだけでも良い場所。地域の集会所のような場所でもあり、気軽に声掛けしてもらったり、大工がいる現場に少しでも足を運んでもらえれば、もっともっと地域の方々と親しめると考えている。(伊藤氏)
- 木と人がどのように暮らすのか、特に、キッチンは働きやすい場所となるよう、バックに木材を使うことや、木をさらに引き立たせるため、木とガラス、木とアルミなど、色々な素材の中に木というものを取り入れている。そのような意味で、木と人が寄り添っていくことが大事である。(安藤氏)